

製品名: ADAM10 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21072**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.2mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:200-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:84kD;Observed MW:84kD

抗原情報

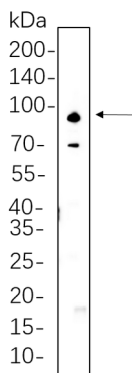
遺伝子名	ADAM10
別名	ADAM10;KUZ;MADM;Disintegrin and metalloproteinase domain-containing protein 10;ADAM 10;CDw156;Kuzbanian protein homolog;Mammalian disintegrin-metalloprotease;CD156c
遺伝子 ID	102.0
SwissProt ID	O14672
免疫原	ヒト ADAM10 の合成ペプチド

背景

細胞局在: 細胞膜; I型膜貫通タンパク質。ゴルジ体膜; I型膜貫通タンパク質。細胞質小胞、クラスリン被覆小胞。細胞投射、軸索。細胞投射、樹状突起。細胞接合、接着結合。細胞質。細胞膜に局在するが、ゴルジ体およびゴルジ体由来と思われるクラスリン被覆小胞にも発現する (PubMed:12475894)。長期抑制時には、DLG1によって細胞膜にリクルートされる (PubMed:23676497)。未熟型は主に細胞質線維構造付近に局在するのに対し、成熟型は主に接着帯および細胞膜に局在する (PubMed:30463011)。成熟 ADAM10 の接着帯への局在とクラスター形成は、AFDN、TSPAN33、PLEKHA7、および PDZD11 によって制御されている (PubMed:30463011)。...ADAM メタロペプチダーゼドメイン 10 (ADAM10) ホモサピエンス ADAM ファミリーのメンバーは、接着ドメインとプロテアーゼドメインの両方を有する独自の構造を持つ細胞表面タンパク質である。この遺伝子は、TNF- α や E-カドヘリンを含む多くのタンパク質を切断する ADAM ファミリーのメンバーをコードしている。選択的スプライシングにより、類似した処理を受ける可能性のある異なるタンパク質をコードする複数の転写バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2016年2月]

研究分野

画像データ



Jurkat 細胞ライセートを 4~20% SDS-PAGE で分離し、膜を ADAM10 ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でプロットングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。